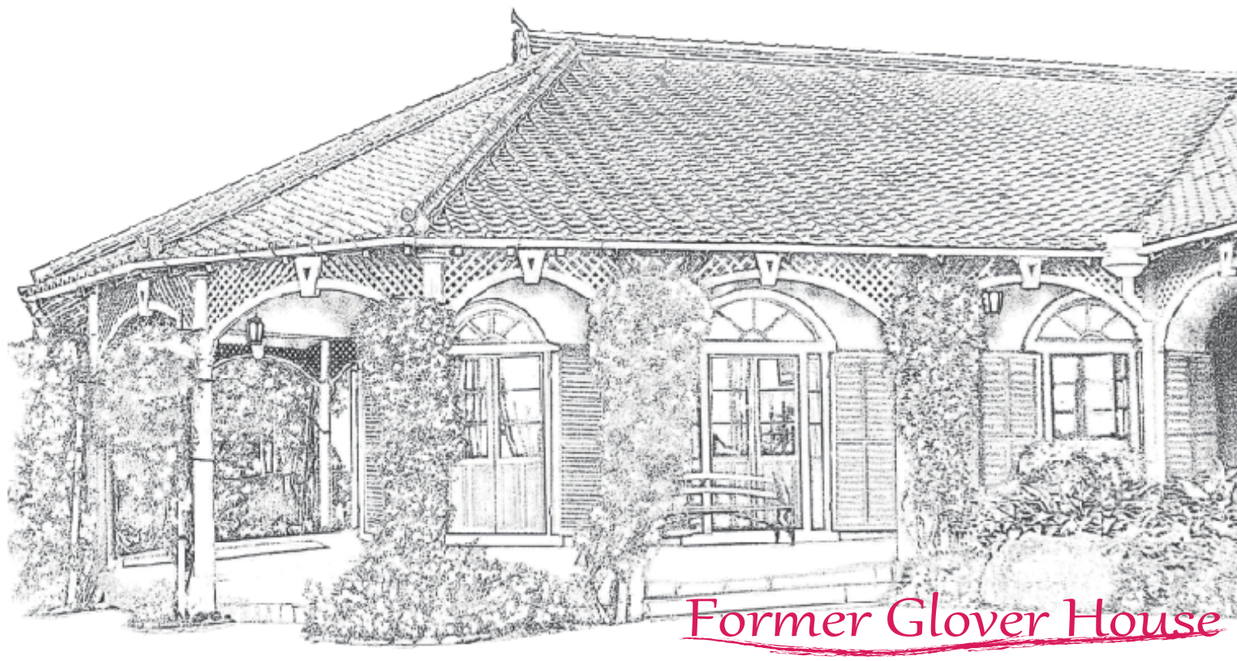
Glover Garden

Glover Garden
ガイドテキスト

旧グラバー住宅

# たてもの ひと くらし



Former Glover House

Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.



▲南山手から見た大浦・東山手居留地です。右端の丘の上に見える白い建物は 1862 年（文久 2）に建設された英国聖公会教会で、わが国最古のプロテスタント教会です。港の奥には出島と長崎市街が見えています。1862 年（文久 2）（長崎大学附属図書館蔵）

# 長崎外国人居留地



▲東山手から撮影された大浦居留地です。海が埋立てられ、居留地には瓦屋根の洋風建築が軒を並べています。左上の南山手の丘に立つ松の木の場所には、グラバー邸が建築されています。明治初期（グラバー園蔵）

1858 年（安政 5）、幕府はアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスの 5 ヵ国と修好通商条約を結びました。条約では外国人が居住と貿易をする場所（いわゆる居留地）を設けることが合意され、長崎では 1859 年（安政 6）に居留地の建設が始まりました。最初の工事は大浦湾の埋立と東山手・南山手の造成で、1860 年（万延元）に完成しました。その後さらに下り松、梅香崎などの埋立を重ね、出島や新地も編入されて、1870 年（明治 3）に長崎外国人居留地の全体像が完成しました。

居留地の各エリアに区画割りが施され、大浦では「バンド」と呼ばれる海岸通りに商社や銀行、領事館が立ち並び、裏通りには工場やホテル、商店が並んでいました。東山手には学校が多く、旧グラバー住宅がある南山手は主に居住地として利用されました。

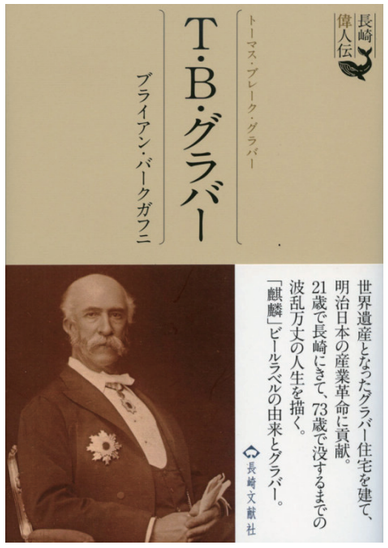



▲グラバー園の入口から見た現在の大浦・東山手です。出島は写真中央よりやや左上にある白いビルの付近にあります。遠方に見える褐色の屋根は活水女子大学です。1879 年（明治 12）にエリザベス・ラッセルがこの地に活水女学校を創立しました。

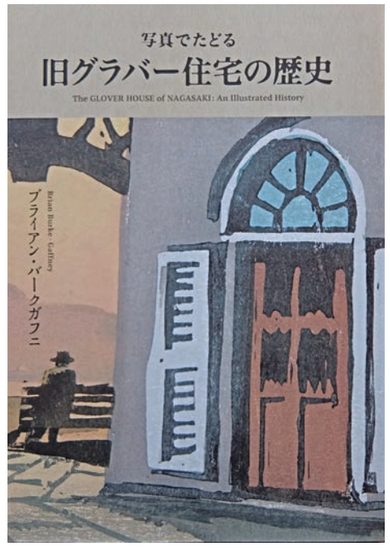



Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.」

# 参考文献




ブライアン・バークガフニ『写真でたどる旧グラバー住宅の歴史』フライング・クレイン・プレス， 2020




ブライアン・バークガフニ、『長崎偉人伝　トーマス・B・グラバー』、長崎文献社，2020

# 企画・監修

## グラバー園保存活用検討委員会

委員長　ブライアン・バークガフニ（グラバー園名誉園長／長崎総合科学大学大学院工学研究科教授）
副委員長　姫野順一（長崎外国語大学特任教授）
委　員　木下孝（さるくガイド）
委　員　中島恭子（フライング・クレイン・プレス研究員）
委　員　中原陽一（(一社）長崎県観光連盟情報推進部長）
委　員　松田亮子（長崎純心大学博物館）
委　員　山田由香里（長崎総合科学大学工学部教授）
委　員　斎藤義朗（長崎県文化観光国際部文化振興課係長 / 学芸員）

## グラバー園保存活用検討委員会事務局（ガイドテキスト制作担当）

ウォーカー・ジェームス正良（グラバー園 統括部長）
松田恵（グラバー園 学芸員）

お問い合わせ：グラバー園管理事務所　長崎市南山手町 8-1　TEL 095-822-8223

Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.

# 年表

| | |
|---|---|
| 1853年（嘉永6） | アメリカ使節ペリーが浦賀に来航し開港を迫る |
| 1858年（安政５） | 幕府がアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好通商条約を締結する |
| 1859年（安政６） | 長崎外国人居留地の造成が始まる<br>トーマス・グラバー来崎（21才） |
| 1862年（文久２） | グラバー商会設立 |
| 1863年（文久３） | グラバー邸を建築 |
| 1865年（元治２/慶応元） | グラバー、大浦海岸通りに蒸気機関車を走行させる<br>グラバー、五代友厚率いる合計19名の日本人の英国渡航を援助 |
| 1868年（明治元） | グラバー商会、佐賀藩と高島の採炭（高島炭坑）の開発を始める<br>グラバー商会、小菅修船場を建設する |
| 1870年（明治３） | グラバー商会倒産。グラバーの息子（のちの倉場富三郎）、誕生 |
| 1876年（明治９） | グラバーの娘ハナ、誕生 |
| 1884年（明治17） | 富三郎、学習院に入学 |
| 1885年（明治18） | グラバー、横浜で「ジャパン・ブルワリー・カンパニー」（キリンビールの前身）の設立<br>グラバー、三菱の常任顧問となる |
| 1890年頃 | 富三郎、アメリカへ留学 |
| 1894年（明治27） | 富三郎、帰国。ホーム・リンガー商会へ入社 |
| 1897年（明治30） | ハナ、ホーム・リンガー商会のウォルター・ベネットと結婚し、仁川（インチョン）に移住<br>グラバー、妻ツルと共に上京 |
| 1899年（明治32） | 富三郎、「長崎内外倶楽部」を発足<br>富三郎、中野ワカと結婚 |
| 1908年（明治41） | グラバー、勲二等旭日重光章 授与 |
| 1911年（明治44） | グラバー、死去（73才） |
| 1912年（明治45） | 富三郎、「日本西部及び南部魚類図譜」（通称グラバー図譜）の制作を始める |
| 1938年（昭和13） | 三菱長崎造船所で戦艦「武蔵」の建造が始まる |
| 1939年（昭和14） | 富三郎、グラバー邸を三菱へ売却し、南山手9番に妻と居住 |
| 1943年（昭和18） | 妻ワカが死去し富三郎は独りになる |
| 1945年（昭和20） | 原爆投下（8月9日）、終戦（8月15日）、富三郎、自死（8月26日）<br>グラバー邸がアメリカ進駐軍の家族の居住地として接収される（9月） |
| 1950年（昭和25） | グラバー邸の所有権が三菱長崎造船所に戻る |
| 1957年（昭和32） | 三菱長崎造船所が、グラバー邸を長崎市に寄贈 |
| 1958年（昭和33） | グラバー邸周辺の整備開始（2月）<br>長崎市営施設として一般公開開始（4月1日） |
| 1961年（昭和36） | 国指定重要文化財となり、正式名称が「旧グラバー住宅」となる（6月7日） |




Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.







▲長崎外国人居留地の古地図（明治 10 年代）。左の図は大浦・東山手・梅香崎、右の図は南山手・下り松居留地です。両図とも建物に色分けがされ、その建物の構造や材質が示されています。旧グラバー住宅は右図の中にあり、木造平屋建てを指す薄水色で示されています。（ともに長崎歴史文化博物館蔵）




▲大浦から下り松に続く街路。通りの奥には弁天橋と南山手が見えています。弁天橋は1865年(慶応元)に大浦川に架けられ、両岸の大浦と下り松居留地が結ばれました。大正期（個人蔵）




▲大浦川越しに見る下り松。川沿いに外国人向けの居酒屋、ホテルや商店が並ぶ賑やかな通りでした。南山手の丘の上には大浦天主堂が見えています。大正期（個人蔵）

Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.



# たてもの

## 旧グラバー住宅

建築年：1863 年（文久 3 ）
構造形式：木造平屋建、寄棟造（よせむねづくり）、桟瓦葺（さんがわらぶき）、ベランダ付
建築者：小山秀之進（こやまひでのしん）
国重要文化財指定：1961 年（昭和 36）6 月 7 日
世界遺産登録：2015 年（平成 27）7 月 15 日
所有者：長崎市

1859 年（安政 6）に来日したスコットランド出身の商人トーマス・B・グラバーの邸宅。建築者は大浦天主堂などの建築を請け負った棟梁（とうりょう）小山秀之進です。日本の伝統的な建築技術と西洋様式が融合する、現存するわが国最古の木造西洋建築です。平面は採光と通風を意識した半円形で、日本瓦（にほんがわら）や土壁（漆喰（しっくい））を用いています。木造菱格子（ひしごうし）の天井を持つ広いベランダが特徴で、石畳の床に立つ木製の独立円柱、柱間の吊束（つりづか）を持つアーチ型欄間（らんま）が、開放的な雰囲気を演出します。



▲現在の旧グラバー住宅前にある丸花壇付近より撮影したもの。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



▲慶応年間のグラバー邸。邸宅の背後には大きな松の木が見えています。右手に写る外国人のうち、イスに座っている中央の女性は、ウィリアム・オルトの妻エリザベスとみられます。1866 年（慶応 2）頃（個人蔵）





▲グラバーは松の木にちなんで自邸を「IPPONMATSU」と呼びました。住宅の北側を増設した際は松を囲むように温室が造られ、まるで温室の中から松が生えているように見えました。しかし 1905 年（明治 38）に松は枯れて切り倒されました。左：年代不詳、右：1905 年（明治 38）（ともに長崎歴史文化博物館蔵）




Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.

# くらし



▲長崎に居留する外国人は、ビジネスの合間に音楽やスポーツなどの娯楽を楽しみました。この写真はグラバー邸の庭で撮影され、人々はテニスのラケットを手にポーズをとっています。前列右から 2 番目、寝そべっている男性がグラバーです。1880 年（明治 13）（長崎大学附属図書館蔵）



▲1897 年（明治 28）、ハナはホーム・リンガー商会の社員であるウォルター・ベネットと結婚します。グラバー邸の前で撮った集合写真にはグラバー、ツル、マーサ、富三郎のほか、フレデリック・リンガー夫妻も写っています。1897 年（明治 28）（個人蔵）



▲グラバー邸の海側に面した部屋で撮影されたハナとワカ。壁紙が貼られた室内には植物や調度品が置かれています。ハナのお腹は心なしかふっくらしており、ワカの左手薬指には指輪が見えます。1900 年代（長崎歴史文化博物館蔵）



▲エプロンを付けた日本人たちが、フライパンやしゃもじ、ほうきを持っています。富三郎とワカが暮らした頃に使用人がいたエピソードがあり、写真の人物たちもその使用人と思われます。昭和初期か（長崎歴史文化博物館蔵）





▲グラバー邸内の温室と廊下の様子です。花々の鉢植えが温室から溢れるほどに並んでいます。その奥には掛軸が見えます。右の写真は、現在のグラバー邸内の同じ場所の写真です。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）

Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.

# グラバー家系図

トーマス・ベリー・グラバー
Thomas Berry Glover (1800-1878)
＝
メアリー・フィンドレー
Mary Findlay (1807-1887)

- チャールズ Charles (1830-1877)
- ウィリアム William (1832-?)
- ジェイムズ James (1833-1867)
- ヘンリー Henry (1836-1837)
- **トーマス・ブレイク・グラバー Thomas Blake Glover (1838-1911)**
  - ＝ 淡路屋　ツル (1848-1899)
  - ＝ 加賀　マキ (1844-1905)
    - 倉場　富三郎 (1870-1945)
      - ＝ 中野　ワカ (1875-1943)
      - 長女
      - 長男
  - ハナ・グラバー Hana Glover (1876-1938)
    - ＝ ウォルター・ベネット Walter Bennett (1868-1944)
      - ハーバート・ベネット Herbert Bennett (1899-1983)
      - トーマス・ベネット Thomas Bennett (1897-1984)
        - ＝ アニス・クエール Annis Quayle (1899-1982)
        - ロナルド・ベネット Ronald Bennett (1931- )
          - ＝ シグネ・ボッソン Signe Bosson (1931-1973)
          - ランダル・ベネット Randal Bennett (1956- )
          - デイビット・ベネット David Bennett (1958- )
            - ＝ シンシア・カットル Cynthia Cottle (1960- )
            - サイラス・グラバー・ベネット Cyrus Glover Bennett (1988- )
      - イディス・ベネット Ddith Bennett (1901-1950)
      - メイベル・ベネット（ライト） Mabel Bennett (Wright) (1903-2001)
  - ＝ ジェイムズ・ウォルター James Walter (1847-1909)
    - ＝ 中野　エイ （？）
- アレクサンダー Alexander (1840-?)
- マーサ Martha (1842-1903)
- アルフレッド Alfred (1850-1904)




Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.



▲グラバー邸のそばには長年にわたりソテツの木があり、今もなお同じ場所で住宅を見守っています。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）

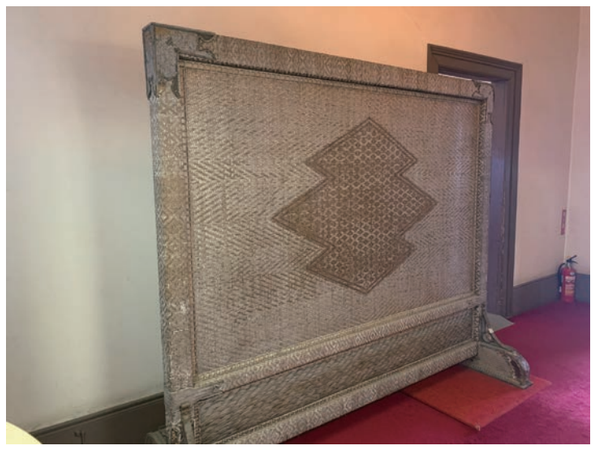




▲保存修理工事前の旧グラバー住宅とソテツ

▲昭和初期のグラバー邸の室内。壁紙が貼られた室内には写真や絵画が飾られ、床にはじゅうたんが敷かれています。部屋の端にはダイニングテーブルが置かれ、家族の食事の場を感じさせます。下の写真は同じ部屋の現在の様子です。また古写真に写っている衝立（ついたて）は、現在もグラバー園に残っています（右下）。昭和初期（グラバー園蔵）





Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.

# ひと



**▲トーマス・B・グラバー　Thomas Blake Glover (1838-1911)**
トーマス・グラバーは 1859 年（安政 6）21 才にして長崎に来航し、1862 年（文久 2）にグラバー商会を設立。翌年にはグラバー邸が建設されました。グラバーは日本の近代化に貢献したとして 1908 年（明治 41)に叙勲を受けました。写真は 25 才頃のグラバーです。1863 年(文久 3）（長崎大学附属図書館蔵）



**▲淡路屋ツル (1848-1899)**
グラバーの妻ツル。グラバーとツルは正式に婚姻届を出すことはありませんでしたが、生涯連れ添いました。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



▲グラバー邸にはトーマス・グラバーの兄弟たちも、スコットランドから長崎に来て暮らしました。前列左より、グラバーの妹マーサ、ハナ、ワカ。後列左より、富三郎、グラバーの弟アルフレッド、トーマス・グラバー。1900 年（明治 33）頃（長崎歴史文化博物館蔵）



▲グラバーは自社の倒産後、財産整理の一環として南山手の建物と借地権を弟のアルフレッドに譲りました。アルフレッドはその後外国人居留者に向けて住宅を貸し出しており、駐長崎ポルトガル領事や英国領事が使用していた時期があります。1902 年（明治 35）頃（長崎歴史文化博物館蔵）


Advertisements.

FOR SALE, OR TO LET.

THE well-known Bungalow called "IPONMATZ." Dining Room and Drawing Room furnished.

Apply to
A. B. GLOVER.

*Nagasaki, 8th December, 1877.*

◀1877 年（明治 10）12 月の英字新聞『ライジングサン・アンド・ナガサキ・エクスプレス』にアルフレッドが投稿した広告。一本松邸（グラバー邸）を売るもしくは貸し出すことが書かれています。（長崎歴史文化博物館蔵）




Copyright © 2020 Glover Garden Inc. All Rights Reserved.」



**▲倉場富三郎 (1870-1945)**
グラバーの息子。ツルは育ての親であり、産みの親は別の日本人女性。長崎、東京で学んだ後、アメリカに留学します。帰国後はホーム・リンガー商会に入社しました。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



**▲ハナ・グラバー　Hana Glover(1876-1938)**
グラバーとツルの娘。ハナはホーム・リンガー商会の社員ウォルター・ベネットと結婚後、仁川 ( インチョン ) へ移住。4 人の子どもに恵まれました。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



**▲中野ワカ (1875-1943)**
横浜のイギリス人商人ジェイムズ・ウォルターと日本人女性中野エイの次女。ウォルターと知人であったグラバーはワカを養女として受け入れることになり、その後ワカは富三郎と結婚し、グラバーが上京後、グラバー邸で暮らしました。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



▲グラバーの死後、グラバー邸の所有権は富三郎とハナが譲り受け、その後富三郎のみの所有となります。富三郎は妻のワカと 1939 年（昭和 14）まで居住した後、三菱長崎造船所に売却し、南山手の別の住宅で暮らしました。年代不詳（長崎歴史文化博物館蔵）



▲終戦後、連合国の進駐軍は事務所や住宅として旧居留地を接収しました。グラバー邸もアメリカの進駐軍に接収されますが軍が去った後、三菱に所有が戻り「三菱長崎造船所創業 100 周年」を記念して長崎市へ寄贈されました。
写真に写る中央の男性はグラバー邸に居住したアメリカ軍のジョセフ・ゴールズビー大佐らです。1947 年（昭和 22）（個人蔵）